

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)乙第 8 号	氏名	高橋 圭介
学位審査委員	主査	畑山 範	
	副査	河野 功	
	副査	尾野村 治	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、精密有機合成化学の立場から、脳機能を司るグルタミン酸受容体に特異的に作用する生体機能性分子を供給し、分子レベルでの脳機能解明に貢献することを目的としており、その目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>グルタミン酸受容体に対する特異的アゴニスト活性をもつダイシハーベインとネオダイシハーベイン A、ならびにアンタゴニスト活性をもつカイトセファリンの天然アミノ酸を合成標的とし、ダイシハーベイン類に関しては、全ての立体を高度に制御する合成法を開発できた点で、また、カイトセファリンに関しては、新規ピロリジン環構築法を開発し、重要中間体の高立体制御合成に成功した点で、研究手法は妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>ピラン環の官能基化、有機亜鉛化合物とのクロスカップリング反応、エポキシアルコールの環化に基づくダイシハーベイン類化合物の高立体選択的合成法を開発し、それらの全合成を達成した。また、γ位にアミノプロピル単位をもつ光学活性γ, δ-エポキシアクリラートの辻-Trost 反応が4級中心において二重反転で進行し、置換ピロリジンが高立体選択的に得られることを見出し、カイトセファリンコア部の合成に成功した。以上の結果から、合成手法における解析と合成研究を推進する上での考察内容は高く評価できる。</p>			
<p>以上のように本論文は薬学の有機合成研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(薬学)の学位に値するものと判断した。</p>			